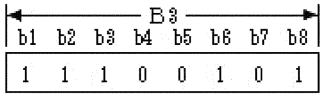
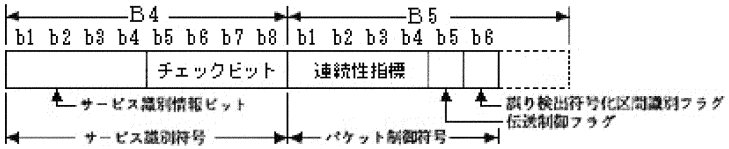
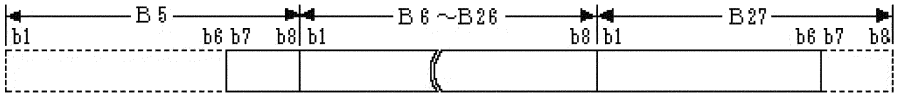
2　バイト同期符号



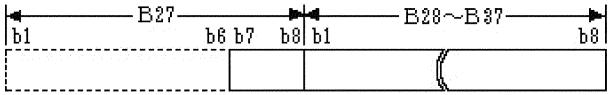
3　プレフィックス



4　データブロック



5　チェック符号



注１　Ｂは、バイトを示し、送出順に１から37までのバイト番号を付す。ｂは、各バイト内におけるビットを示し、送出順に１から８までのビット番号を付す。以下別表において同じ。

２　ビット同期符号及びバイト同期符号は、データパケットにデータが含まれていない場合においても送出するものとする。

３　サービス識別符号は、送出モードの区分に応じ、次のとおりとする。

送出モード	サービス識別情報ビット				チェックビット（８，４拡大ハミング符号）			
	ｂ１	ｂ２	ｂ３	ｂ４	ｂ５	ｂ６	ｂ７	ｂ８
送出第１モード	0	1	0	0	1	0	0	1
送出第２モード	0	1	0	1	0	1	0	0
送出第３モード	0	1	1	0	0	0	1	0
送出第４モード	0	1	1	1	1	1	1	1
補助信号	1	1	1	0	1	1	0	0
運用信号	1	1	1	1	0	0	0	1

⑴　送出第１モード及び送出第２モードは、逐次受信処理、送出第３モード及び送出第４モードは、記録受信処理の場合に使用するものとする。

⑵　補助信号は、番組索引データを送信する場合に使用する。

⑶　運用信号は、地上基幹放送局を用いて行う標準テレビジョン放送（デジタル放送を除く。）の運用上必要な場合に使用する。

４　連続性指標は、データパケットの連続性を示すための番号であり、２進値（ビット番号が最大のビットを最上位ビットとし、最小のビットを最下位ビットとして２進数で表す値をいう。以下別表において同じ。）により０から15までの値を順次繰り返すものとし、一の送出単位内では連続する。

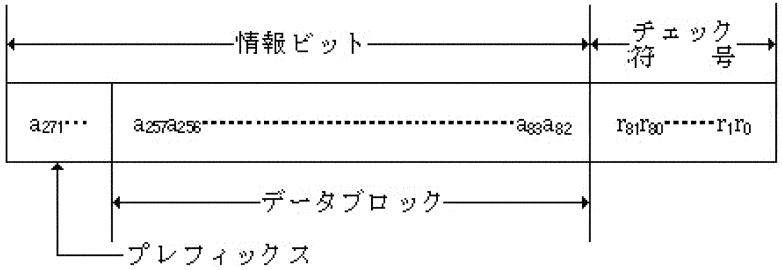
５　伝送制御フラグは、送出単位の送出の開始を示すフラグであり、最初のデータパケットの場合は「１」とし、その他の場合は「０」とする。

６　誤り検出符号化区間識別フラグは、誤り検出符号による誤り検出の符号化区間の開始を示すフラグであり、ヘッディング開始符号又はテキスト開始符号を有するデータパケットの場合は「１」とし、その他のデータパケットの場合は「０」とする。

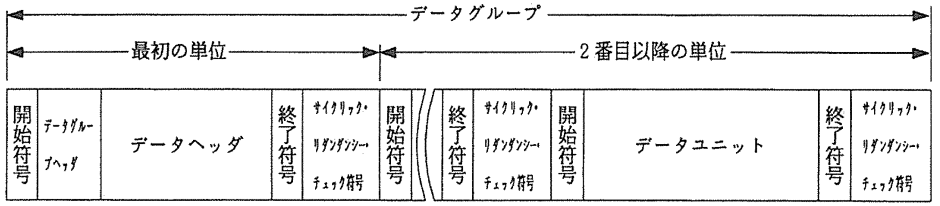
７　チェック符号は、次のとおりとする。

情報ビット（Ｂ４のｂ１からＢ27のｂ６までの190ビット）の値を順次、多項式$a_{271}X^{271}+a_{270}X^{270}+\cdots+a_{82}X^{82}$の各項の係数値とし、この多項式を生成多項式Ｇ（Ｘ）＝$X^{82}+X^{77}+X^{76}+X^{71}+X^{67}+X^{66}+X^{56}+X^{52}+X^{48}+X^{40}+X^{36}+X^{34}+X^{24}+X^{22}+X^{18}+X^{10}+X^{4}+1$で除した剰余の多項式$r_{81}X^{81}+r_{80}X^{80}+\cdots+r_0X^0$の各項の係数値をチェック符号ビットとし、順次Ｂ27のｂ７からＢ37のｂ８までの値とする。

この場合における多項式の各係数値とビット位置の関係は、次のとおりとする。



別表第二号　データグループの構成



注１　データグループは、一の単位で構成される場合がある。

２　最初の単位は、一のデータブロックにより、２番目以降の単位は、一のデータブロックにより又は２以上のデータブロックにより構成されるものとする。

３　開始符号のうち、データグループの最初に置くものは、ヘッディング開始符号とし、その他のものは、テキスト開始符号とする。

４　終了符号のうち、ページの最終データユニットの後に置くものは、テキスト終結符号（最終ページ及び番組索引データの最終データユニットの後に置く場合は伝送終了符号）とし、その他のものは、伝送ブロック終結符号とする。

５　サイクリック・リダンダンシー・チェック符号の位置をデータブロックの最後の部分とするため、データユニットの末尾には、必要に応じて空白（ＮＵＬ）を設ける（空白は、データユニットのデータ長には含めない。）。